

令和元年度
阿賀野市市政モニター意見・提言報告書
(イメージ)

令和元年11月

令和元年度阿賀野市市政モニター会議を3回にわたり開催し、市政に対する意見・提言等を次のとおり報告書としてまとめました。

市においては、まちづくりの目標である「元気で明るく活力のある魅力的なまち」の実現に向け、より充実した施策を推進されるよう期待します。

1 安全・安心なくらしの実現に関するもの

- ◆外に出られない人や地域とのかかわりがない人に対するヘルスケアの充実（感動や笑いのない生活は認知症につながる危険性があるため）。
- ◆災害時の情報連絡手段に関する周知の強化（防災行政無線の内容が聞き取れない場合の電話による確認方法を知らない人が多いため）。
- ◆小中学校におけるクマ出没時の対応の強化（集団登下校などの実施）。

2 子どもの育成支援の充実に関するもの

- ◆子育て世代が移住したくなるようなインパクトのある子育て支援事業の実施

3 高齢者や障がい者福祉の充実に関するもの

- ◆障がい者の移動支援の充実（市内障害者就労支援施設の利用者が通しやすい公共交通を整備）。

4 地域経済の活性化に関するもの

- ◆市道の法面の除草作業を行う農業者等への支援（今後、農業の担い手減少や農地の大規模化が進むと、法面の除草作業は大きな負担となるため）。
- ◆市内事業者の商品パッケージデザイン制作への支援。
- ◆1次・2次・3次産業の領域を越えた複数事業者の連携による取り組みへの支援（これからは新しく作るのではなく、あるものをつないで新しい価値を生み出していく時代であるため）。
- ◆瓢湖の魅力向上（インスタ映えスポットや地場産物を使った飲食物の販売、駐車場から歩道橋までの導線見直し・屋根付き歩道橋の整備等）
- ◆いこいの森の魅力向上（ジップラインや、車をそのまま乗り付けてキャンプできるような環境整備等）

- ◆首都圏の旅行会社と連携した観光客の呼び込み
- ◆女性をターゲットにした文化・芸術、ものづくりなどを活かした観光地づくりの推進
- ◆うららの森の魅力向上（長時間滞在できるよう、レストランや野菜直売所、公園などの子どもの遊び場を一体的に整備）
- ◆ふるさと公園の魅力向上（公園と図書館に魅力ある何かを組み合わせで整備）

5 生活に密着した住環境整備の促進に関するもの

- ◆市民の利便性や各地区の特徴を踏まえたまちづくりの推進（ただし、市になって15年が経つので、旧町村単位にこだわり過ぎる必要はない）
- ◆地域住民の協力による交通弱者の移動支援体制の構築（退職した人等が運転手となり、循環バスから外れた地域住民の移動を支援）

6 市民協働の推進に関するもの

- ◆地域に花のあるまちづくりの推進（花を植えたプランターがあるだけでまちが明るいイメージになるため）
- ◆地域ごとに集まって交流できる場所づくりの推進
- ◆市と各NPOとのネットワーク化（市がNPOに求める事柄の提示と市・NPOによる意見交換会の実施）
- ◆市勢要覧の見直し（県平均や他市町村などと比較できるデータやそれについてのコメント、市民目線で感じた主観的なデータ等の掲載、市内中学校美術部による表紙イラストの制作など）

7 信頼される行政経営に関するもの

- ◆各課にある運動関連事業の一元化（福祉や健康、スポーツ分野のワンストップ窓口の創設）。
- ◆市が立ち上げに関与した事業のフォローアップの継続（短期間で市民団体等が自立することは難しく、一定期間は行政の支援が必要）。
- ◆市役所における市民の優先的採用（近年は市外在住者、市外出身者が多いように感じる）。

■会議開催経過

	開催年月日	主な内容
第1回	令和元年8月29日(木)	普段の生活の中で感じていること、地域や身の回りで起きている変化、疑問に思うことなど
第2回	令和元年9月30日(月)	市勢要覧について、平成30年度阿賀野市市政モニター会議での意見・提言に対する回答について、総合計画の政策体系ごとの意見・提言について
第3回	令和元年10月30日(水)	総合計画の政策体系ごとの意見・提言について

■令和元年度阿賀野市市政モニター

氏名	地区
月岡 健一	安田
権瓶 佳子	安田
赤沼 映美子	安田
遠藤 志野	京ヶ瀬
塩田 亨	京ヶ瀬
田村 真樹	京ヶ瀬
廣川 亜美	水原
土岐 一希	水原
雪 薫	水原
伊藤 明美	笹神
榎本 英樹	笹神
遠藤 洋二	笹神